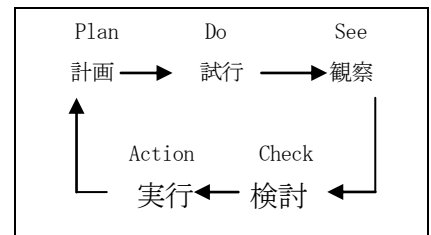


8. 分析・考察の方法について

研究の分析とフィードバックは、一般的に右図のようなプロセスで授業が改善されていきます。今回の研究は生徒一人一人に焦点を当て、前回の発表以上に生徒の自己教育力を伸長し『進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度』を身につけさせることを目的としています。教師側から意図的にはたらきかけたことが、生徒にどのような影響を与え「生徒がどのように変容したか」「どのように授業がよくなったか」を中心に分析したいと考えています。



分析は、学習指導の観点からは学習指導計画（含、評価計画）、授業の展開、教材教具の利用に焦点をあて、現状と今後のあり方を検討します。前回の関プロ大会に向けた取り組みでは、授業の流れや生徒・教員の動きを客観的に記録して、1時間で何人の生徒に言葉をかけたかということや指示、演示、発問等の割合がどのようであったかを分析する係を設けました。様々な方法があるので、授業をよくするためにどのような資料が必要かという面からも分析のための準備を進めておきたいものです。

(1) 学習指導に関する分析

① 学習指導計画

学習指導計画は授業の構想図であり、進度チェックや調整にも必要です。また、評価計画、評価規準の確認にも使用されます。少ない時間ではありますが、地域の特色を生かしながら、工夫して効果的な学習活動が進められるようにして下さい。

学習指導計画の分析と考察にあたっては、以下の点に注意しながら研究を進め、生徒のためにより効果的な計画立案・修正をお願いします。

学習指導計画分析のための視点

- 学習指導要領に照らして、各項目がきちんと網羅されているか。
- 必要などころに多くの時間を割くために他の部分に著しく無理が出ていないか。
- 生徒にとって学習の流れがわかりやすいものになっているか。
- 評価計画欄があり、どのような力がついているかを何で判定するかなどについて適切な記述になっているか。

特に以下の点については今回の発表の中心的な部分になるため、より力を入れて検討してください。

- 3学年間を見越して作られている。
- 技術と家庭の両分野がどのように関連し合っているかということが分かりやすく示してあるか。

② 展開

展開については学習指導計画を受けて毎回の授業を行うにあたり、教師が生徒とどのように関わって授業を進めていくかを分かりやすく示して下さい。

学習指導計画分析のための視点

- 導入は効果的か。（意欲を喚起し、授業の目的に迫れるものであるか。）
- 教科特有の言語活動を取り入れた授業設計になっているか。
- 生徒の思考時間・活動時間が十分に確保されているか。
- 授業内評価が必要などころで適切に行われているか。（含 評価の客観性）
- 授業の目標に対する評価（まとめ）が適切に行われているか。
- 次時の学習に向けて意欲付けが効果的にできているか。
- 個々の生徒に目を向け、それぞれの生徒が目標を達成できているか。

生徒が「生き抜く力」を身につけるための学習指導を展開するために、方法を選択できるような工夫をしたり、考えさせたりするような展開が考えられます。さらに、教科特有の言語活動を取り入れて「技術を評価し活用する」「生活を工夫する」取り組みが展開の中にあると、今回の研究に対する取り組みが参観者へわかりやすく提示できると思います。

③ 教材・教具

効果的な授業を行うための教材・教具については以下の点に留意して分析をお願いします。

教材・教具分析のための視点

教材

- 地域や学校の特性を生かし、学習内容を効果的に網羅した教材であるか。
- 生徒の興味関心を喚起し、日常生活に生かせる教材であるか。

教具

- 見やすく、わかりやすい提示ができる教具であるか。
- 利用場面や、タイミング、教具の数等が実態に照らして効果的であるか。

(2) 研究活動に関する分析

研究大会は埼玉県の中中学校がまとまってそれぞれの力を高められるよい機会であり、生徒のためにより良い授業が展開できるように各校の教員が授業を見直すよい機会でもあります。

今回も、埼玉県が関プロの取り組みで以前から進めてきている「一人の百歩より百人の一步」をめざして、県全体のレベルアップを図りたいという意向で研究を推進していきます。

具体的には、今回の研究成果が県内のどの中学校でも生かされ、どの学校にも当たり前のように、その学校の実態に合った3年間を見通した技術・家庭科の指導計画があり、新しい観点に立った授業が当たり前のように行われている状態を究極の目標としたいと思います。このことから、以下の点についても研究成果や状況を検証していただくことが必要になります。

研究活動分析のための視点

- 専門委員会の研究成果が各支部の研究に生かされているか。
- 埼玉県のwebページ中、各学校に関するデータやコンテンツの更新を、担当を決めて更新作業が行える状態になっているか。
- 市町村レベルで技・家の教員ネットワークが確立し、相談や意見交換等が問題なくできる状態になっているか。

確認できる問題の原因を検討し、対策を立てて解決を図ることの繰り返しが研究を推進し、授業を変えていきます。理想的な生徒の変容こそが我々の目指すところです。糸かく状況を確認し、以後の取り組みに生かしていただけるようお願いいたします。